

《担当者名》 下村敦司 飯田貴俊 太田亨 才川悦子 田村至 中川賀嗣 橋本竜作 黒崎芳子 榊原健一
 福田真二 森元良太 飯泉智子 小林健史 前田秀彦 柳田早織 葛西聡子 辻村礼央奈 熊谷萌

【概要】

学外での臨床実習を開始する前に、言語聴覚士として適切な技能および態度を学ぶ。評価は、客観的臨床能力試験（OSCE）により行う。客観的臨床能力試験（OSCE）では、現実の診療現場を再現した状態下で臨床能力を評価する。

【学修目標】

言語聴覚療法の専門知識と技術を、医療現場において適切に実施するために、言語聴覚療法プロセスを学習し、言語聴覚士としての基本的な技能と態度を行うことができる。

1. 発声・発語、言語発達、高次脳機能、摂食・嚥下に関する正常構造と機能について説明できる。
2. 発声・発語、言語発達、失語・高次脳機能、摂食・嚥下障害のメカニズムについて説明できる。
3. 発声・発語、言語発達、失語・高次脳機能、摂食・嚥下障害を、科学的かつ医学的エビデンスで解析できる。
4. 発声・発語、言語発達、失語・高次脳機能、摂食・嚥下障害を評価できる。
5. 発声・発語、言語発達、失語・高次脳機能、摂食・嚥下障害に対する治療計画を立案できる。
6. 適切な医療面接を行うことができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	客観的実技試験（OSCE）について知り、その心構えを学ぶ。	全担当教員
2	医療面接、報告、診療録記載の基本	医療面接から各種検査を理解する。 医療面接、報告、診療録記載の基本を学ぶ。	全担当教員
3	言語聴覚士に必要な基本的実技	小児発声・発語、言語発達、失語・高次脳機能、摂食・嚥下、小児聴覚障害に関する基本的実技を身につける。	全担当教員
4	小児発声・発語障害の評価	小児の発声・発語障害を理解し、その評価法を学ぶ。	全担当教員
5	失語症・高次脳機能障害の評価	成人の言語障害、高次脳機能障害を理解し、その評価法を学ぶ。	全担当教員
6	小児言語障害の評価	小児の言語発達を理解し、その評価法を学ぶ。	全担当教員
7	摂食・嚥下障害の評価	摂食・嚥下障害を理解し、その評価法を学ぶ。	全担当教員
8	小児聴覚障害の評価	小児の聴覚障害を理解し、その評価法を学ぶ。	全担当教員
9	総括	第1回～第8回講義内容の総括と習熟度の確認を行う。	全担当教員

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

客観的臨床能力試験（OSCE）100%

客観的臨床能力試験実施後、問い合わせがあった場合には疑問点に答える。

【教科書】

各領域の講義で紹介された教科書および配付資料

【学修の準備】

予習は、次回の授業範囲の教科書または配布資料を読み、理解に努める。また、理解できない部分はチェックしておくこと。

（80分）

復習は、授業範囲の教科書および配布資料を用い、また実技練習を通じて、講義で学習した内容を各自で深めること。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）医学の進歩によって救命ができるようになり、また平均余命も伸びてきました。これからは、健康を損なっている人、病

気やけがで心身に障がいを持っている人たちが地域でその人らしい生活を営めるように、保健・医療・福祉の各分野で活躍する専門職種が連携しあって、地域全体で支援していくことが重要です。その視点を持って言語聴覚療法の専門的な知識と技術を適切に提供できる能力を身につけます。